

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

働き方改革の究極の姿 (人間的な仕事への特化) 野口 悠紀雄 (早稲田大学ファイナンス総合研究所顧問)

1. IT の活用は、働き方に大きな影響を与える。導入の必要性が昔から指摘されていたものが、二つある。第 1 はテレワーキングだ。仕事のうち必ずしもオフィスで行う必要がないものを、インターネットや PC を活用することによって在宅で行う方式である。第 2 は、フレックスタイムだ。組織の全てのメンバーが同一時間にオフィスに出勤するのではなく、個人の都合などによって出勤時間を柔軟にするという方式である。
2. 政府も、働き方改革の中で、これらの実現を提唱している。そして導入のためにさまざまな補助策を講じている。しかし、現実を見ると、必ずしも導入は進展していない。導入が進まない理由として、テレワーキングやフレックスタイムが、日本型組織での働き方と相性が悪いことが指摘される。日本の多くの組織では、大部屋で全員が協業し合うのが普通の仕事の進め方だ。個人の中の範囲や責任・権限が明確に定められているわけではなく、状況に応じて管理者の裁量で仕事が割り振られる場合が多い。
3. 情報技術の進歩によって、人間の職が奪われると懸念されている。確かにそうしたことが起きることは否定できない。しかし、それはコンピューターと人間の戦いではない。人間がコンピューターをうまく使うことによって、人間でなければできないような仕事に特化していくことが可能である。働き方改革の究極の姿は、そのような世界を実現することだ。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2017 年 3 月 18 日号)

経営者のための理念・哲学

「生ききる・不動心」

大村 智 (北里大学特別荣誉教授)

1. 経営に当たっていつも心掛けてきたのが、「実践躬行」と「至誠・測怛」です。実践躬行は、言うだけでなく、自らやって見せなさいということ。至誠測怛は、誠を尽くし、^{いたわ} 労りの心を持つという意味で、幕末に備中松山藩の藩政改革を成し遂げた山田方谷が、長岡藩の河井継之助に贈ったという逸話があります。私は、この二つの言葉をいつも心に留めて改革に打ち込みました。
2. 「よき人生は日々の丹精にある」。これは、生前懇意にしていたいた臨済宗僧侶・松原^{やすどう} 泰道先生が、101 歳の時に贈ってくださいました言葉です。私の居間には、その泰道先生の「生ききる」という言葉、そして東大寺の別当を務められた清水公照先生の「不動心」という言葉を飾っています。

(参考:「致知」:2017 年 6 月号)

人事・労務について

長時間労働の是正だけではない

古森 重陽 (富士フィルムホールディングス会長・CEO)

1. 日本人の最大の欠点はスピードが遅いことにある。日本は摩擦が生じるような意思決定に後ろ向きで、じりじりと無駄な時間ばかり費やしていることがあまりにも多い。やるべきことをやらない。慎重に検討して根回しをして、皆で責任を回避しようとするからで、自分でその決定の責任を負おうとしない。勇気が足りないのだろう。仕事におけるスピード・戦略性・効率性は重要な要素のはずだ。
2. 働き方改革は長時間の是正だけが目的ではない。今や世界中のオフィスにコンピューターシステムが導入され、社員はモバイル機器を持つなど仕事をするには格段に便利な環境になっている。これらを使いこなせば、効果的・効率的に仕事を進められるはずだ。仕事の質が高まることで、個人の生活を豊かにする時間も生まれる。量から質への転換を進める働き方改革からは、さまざまな面で新たな気づきが得られるだろう。

(参考:「日経ビジネス」2017 年 4 月 3 日号)

古典に学ぶ

礼に過ぐればへつらいとなる

(解説) 真実と誠実がなくては、礼は茶番であり見世物である。「礼に過ぐればへつらいとなる」と伊達政宗は言う。「心だに誠の道にかなひなば祈らずとも神や守らん」との誠めをのべた古代の歌人(菅原道真・845~903 年)は、ポロウニウス(シェクスピア作「ハムレット」の中の人物)よりたしかにまさっている。

(参考:佐藤全弘(訳)新渡戸稲造「武士道」:教文館)